

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2020



所 属：心理臨床学科

名 前：高野 美雪

作成日：2020 年 10 月 27 日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：高野 美雪

所属：人文学部 心理臨床学科 心理学コース専攻

1. はじめに

心理学は、受験生である高校生にとっては、高校まで学ぶことない学問分野である。にもかかわらず、大学の中の進路選択の一つとして選ばれようになってきた。これは、高等教育までの心理学的支援を受ける機会の増加が考えられる。この社会情勢を受け、心理学を初めて学ぶ学生にとって貴重な機会となる大学教育は、期待に答えることが重要であると考え。さらに、本学は公認心理師養成を開始したことも踏まえ、大学教員として教育手法等について検討する。

2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学における私の担当は、学部では、公認心理師養成のための小児及び医療、教育領域の臨床心理系科目、及び教職科目である。大学院では、発達査定、学校臨床関連の科目及び研究指導を担当している。2019 年度までは、保育コースの科目 2 科目、共通科目 1 科目を担当していた。

2020 年度は、心理学コース長を担当している。2015 年度から 2018 年度は、図書館長、2019 年度は、FD・SD 委員長、2020 年度は、ハラスメント委員長として責務を果たしている。

アドバイザーとして、学部生や長期履修生を担当している。

2.1. 授業科目の担当

2018 年～2020 年度の 3 年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
心理学的支援法	2019 年—2020 年	60 名程度	心理
障害者・児心理学	2019 年—2020 年	65 名程度	心理
健康・医療心理学	2020 年	30 名程度	心理
心理演習 I	2020 年	20 名程度	心理
心理実習 I	2020 年	20 名程度	心理
心理実習 II	2020 年	20 名程度	心理
特別研究	2010 年—2020 年	10 名前後	心理

卒業研究	2010 年—2020 年	10 名前後	心理
カウンセリング	2011 年—2018 年	50～100 名程度	共通教育
フレッシュマンゼミ (心理臨床学の基礎)	2010 年—2020 年	ゼミ：20 名程度 基礎：80 名程度	心理
障害児保育	2013 年—2019 年	30 名程度	保育
保育の心理学 I	2017 年—2019 年	30 名程度	保育
教育相談（中・高） (2020 年教育学校心理学：兼)	2014 年—2020 年	教職 30 名程度 心理 30 名程度	教職 2020 年度より心理
障害査定心理学特論	2015 年—2020 年	6—8 名程度	大学院
学校臨床心理学特論	2010 年—2020 年	6—8 名程度	大学院
研究指導	2010 年—2020 年	2～3 名程度	大学院

■ 主要担当科目

主要担当科目は、学部では、心理学的支援法、障害者・児心理学、教育相談【中高】、心理演習 I、心理実習 I である。大学院では、障害査定心理学特論、学校臨床心理学特論である。以下、各科目の講義概要である。

「心理学的支援法」

公認心理師養成に関わる科目であり、心理療法概要及び実践方法について講義を行なっている。

「障害者・児心理学」

公認心理師養成に関わる科目であり、障害について事例を元に対応方法について講義を行なっている。

「教育相談【中高】（教育学校心理学）」

中高免許（英語、公民）取得、公認心理師養成に関わる科目であり、教育現場の実情と支援方法について講義を行なっている。

「心理演習 I」

公認心理師養成に関わる科目であり、知能・発達評価について講義を行なっている。

「心理実習 I」

公認心理師養成に関わる実習科目であり、教育分野に関わる実習コーディネーター、事前・事後学修指導、巡回を担当している。

「障害査定心理学特論」

障害支援の際に必要な知能・発達評価について講義を行なっている。

「学校臨床心理学特論」

教育現場の実情と支援方法について講義を行なっている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

- 非常勤講師
- 熊本大学医学部「衛生学」
公衆衛生学分野について学校保健に関する内容を医師となる医学科 3 年生を対象に講義を実施している。
- 熊本県看護協会 実習指導者講習会「教育心理学」
看護実習生受け入れ実習機関における実習指導者養成のために毎年県内医療機関より参加する実習指導責任者 60 名程度に講義を実施している。

教育組織運営

2020 年度は、心理学コース長を担当し、心理学コースの科目編成等を実施している。2015 年度から 2018 年度は、図書館長として図書館運営管理に携わり、熊本地震対応、アウトソーシング導入を実施した。2019 年度は、FD・SD 委員長として、9 回の研修会を実施した。そのうち、学生 FD 研修会開催、また学外講師として共愛学園前橋国際大学大森学長を招聘し講演会を実施した。その他、授業参観ウィーク実施、自己点検・相互評価委員会、広報委員会、学務・入試委員会、障害サポート委員会、研究推進委員会、地域連携推進委員会、研究推進委員会と研修会や報告会を共催開催を実施した。SD 委員会も 2 回実施した。

2020 年度は、ハラスメント委員長として学生相談員のメンバー共に、相談記録表作成、研修会企画を実施している。

3. 教育の理念

少人数教育を活かし、学生個人に沿った教育を実施し、卒業までの 4 年間に社会的自立に向けて自立心を育むよう心がけている。また 2018 年度より公認心理師養成が開始されたことにより、公認心理師育成を目指し、教育実践を行なっている。特に、作成者の専門領域を活かし、小児医療・教育領域での支援者として活躍できる人材育成を目指している。

3.1. 理念 1 社会的自立に向けた教育

大学に入学し、高校までの用意された時間割に則った学校生活から初めて大学では、自分自身のカリキュラム作成など、自ら判断することが求められる場面も増えるため細やかな支援を心がける。

3.2. 理念 2 公認心理師養成を目指した教育実践

公認心理師として、必要な知識や実践方法を習得させる。

3.3. 理念3 小児医療・教育領域で支援者として活躍できる人材育成

子どもやその家族、支援者たちにより良い支援を提供できる人材育成を目指す。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 社会的自立に向けた教育

カリキュラム決定には、最終的に自己決定で納得できる選択を促す。また、必要に応じ、社会人としてのマナーを教え、在学中に成人年齢に達することで社会に責任も生じることも伝える。

4.2. 公認心理師養成を目指した教育実践

心理師として、地域貢献を担えるよう、日頃より取り組んでほしい発展課題、情報などを提供している。また参加型の授業により現場で活躍するための技術を伝えるよう心がけている。

4.3 小児医療・教育領域で支援者として活躍できる人材育成

正確な知能・発達評価技術習得、小児を対象として面談技術、心理療法実践、保護者対応について学ぶ機会を積極的に設ける。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

公認心理師養成が開始されたが、公認心理師科目における教員間で科目の位置づけの方向性が曖昧と考える。そのため、資格所得の意味や進路選択のための準備を自覚させることに時間を要した。実習開始時点でまだ資格取得を迷っている状況であったりする。今後は、早期の意識づけを行い、大学院進学、養成実務機関就職を視野に入れた準備を2年生から進めることが望ましい。今後、他教員担当科目も含め、連続性のある授業内容、履修条件等を随時検討する必要がある。

5.2. 改善努力2

2020年度は、コロナ禍における遠隔授業となったが、心理アセスメントや療法実践は、著作権等によりオンラインでの講義でネットに載せるのは難しいというのが現状である。今後、コロナ感染拡大の場合は、対面授業実施可能な人数で1回の受講生数を調整し、2回同じ講義を行うことも予定して授業準備を行う。

6. 教育の成果・評価

公認心理師養成には、指定科目履修条件を伝えるだけでなく、大学院進学、養成実務機関就職を進めるために、1年生の頃より十分なオリエンテーションを実施していきたい。また、小児医療・教育領域での支援者として活躍できる人材育成を進めていくため実践現場を確保したい。

7. 今後の教育に関する課題と目標

公認心理師完成年度は、来年度となる。その後の進路補償を十分実施していきたい。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果